



常樂寺

滋賀県立短期大学
名誉教授 宇野茂樹

(一)

常樂寺は甲賀郡石部町西寺に所在して、海拔六九三メートルの阿星山^{あほしやま}を背景とした山裾に、本堂・三重塔を具備する天台宗の寺院です。石部の町から東西寺口の道を南東に向かって約二・五キロ程歩くと、眼前の叢林に三重塔が望見せられ、山寺の名刹ならではの風情がみちみちしております。常樂寺の沿革については、十四世紀の二十八部衆造立勧進状、本堂再建勧進状によると、和銅年間（七〇八～一五）良弁が開基した阿星寺五千坊の一つで、阿星寺焼亡のとき本尊千手觀音像が火災中より常樂寺觀音堂に飛翔して以来本尊となった。平安時代に入って仁平年中（一一五一～五四）行胤^{ぎょういん}が堂舎を再興し、鎌倉時代には亀山天皇が勅命をもって雨請の秘法を修せしめられ、鎮護国家の道場とされたと伝えられています。常樂寺の濫觴となった阿星寺は阿星山頂近くにあったとされますが、その寺地は判然といたしません。しかし奈良時代のころより一部の僧侶によって行なわれた山林修業は、平安時代に入ると山林修業が盛行し、最澄の比叡山寺、空海の高野山の入山などはその代表的なもので、阿星山寺の良弁開基は別としても、阿星山は聖武天皇の紫香樂宮とも近く、そのころの僧侶が阿星山に入山修業したことは充分に理解できると思われます。阿星山の峯つづきの金勝山上には天長十年（八三三）定額寺に列せられた金勝寺、また奈良時代の臼坂磨崖仏があり、常樂寺の隣地東寺には天台名刹長寿寺^{ちょうじゅうじ}が所在して、湖南佛教文化圏を形成しております。

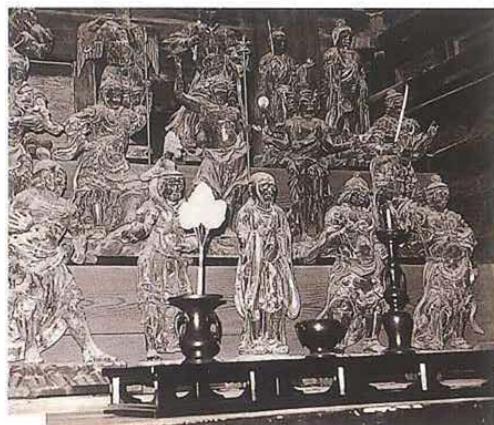
(二)

常樂寺本堂は正面七間、側面六間（間は柱間の数を示します）入母屋造、桧皮葺の建物で、三間の向拝が正面につけられています。



国宝常樂寺本堂

延文五年（一三六〇）に建立された南北朝時代の優美な本堂で国宝に指定されています。内部は外陣・内陣・後陣に分かれ、内陣は須弥壇中央に立派な厨子が設けられ、秘仏の千手觀音坐像（重文）が安置されています。本堂内陣で特に見事なのは、本尊両側に囲繞される二十八部衆（重文）の群像であります。



常樂寺本堂内陣二十八部衆全景

この二十八部衆の造像については、延慶元年（一三〇八）六月の奥書がある『二十八部衆造立勧進状』があり鎌倉時代に造られたこと

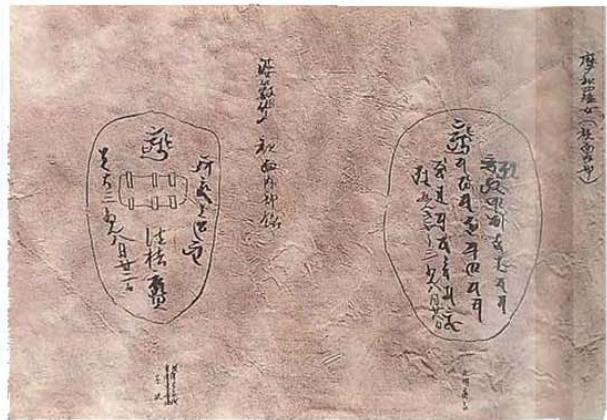


二十八部衆
婆藪仙人像（徳治三年）



二十八部衆
摩和羅女像（延慶三年）

が知られます。像高はそれぞれ一メートル弱の像で、寄木内刳りからなる彩色像で、いづれも玉眼を嵌入して、二十八躯の二十八部衆に風神・雷神を加えた三十躯の群像は、薄暗い内陣の中に、密教寺院ならではの威圧感をただよわせています。二十八部衆は本尊千手觀音菩薩像の護法像で、そのうちの七躯の像



二十八部衆像内墨書銘写

内に造像年記や仏師名が墨書きされています。最も早い年記は徳治三年（一三〇八）で、ほかに延慶三年（一三一〇）、正和元年（一三一二）正和三年があり、仏師名では法橋永賢、覺□（文字判読出来ないので□とする。）などが記されています。徳治三年は十月九日に改元されて延慶元年になっていますから二十八部衆造立着工と同時に造像結縁の勧進が行われたことが推察されます。群像の像容は京都蓮華王院（三十三間堂）の千手觀音千体仏に配祀される二十八部衆に像高は異なるとはいえ、これに範をとったことが容易に窺われます。造像に関与した仏師は永賢の他に覺□（文字判読出来ないので□とする。）しか判明しないが、永賢が上座仏師となって、その下に多くの仏師が参加して五ヶ年余をついやして完成したと考えられます。この二十八部衆は『本堂再建勧進状』によると延文五年（一三六〇）三月二十六日、神火（落雷か）のため堂舎ごとく焼失したとあり、このとき救出されたようです。群像の数軀に一部焼損の跡があって、このことを裏付けますが、半面三十軀の群像をよくも持ち出したものと驚かざるを得ません。しかし二十八部衆の内の一つである畢婆迦羅王像は罹災したらしく、作風が少し古様を呈しています。恐らく法量の近い四天王像の一軀を転用したものであろうと考えています。

後陣の須弥壇には、半丈六の釈迦如来坐像

(重文) が安置されてあります。寄木内削り漆箔像で、定朝様の流れを汲む平安時代末期の作で、常樂寺に伝存する錫杖と共に平安時代の唯一の遺宝です。平安時代の後半は、十一世紀中ごろに活躍した仏師定朝の和様化した造像様式が「仮の本様」とされ、定朝様を踏襲していった時代で、この後陣の釈迦如来像は十二世紀の定朝様を知るに足る仏像の一つであると言えます。温和な風貌、穏やかな衣文の衣褶は、平安時代の好みにあった仏の尊様であったわけです。後陣にはこのほか造像時代は降るが、普賢十羅刹女の珍しい小像があります。白象に乗る普賢菩薩を中心とし、法華経を護持する十人の天女形の十羅刹女が配された群像で、絵画ではよく見かけますが、彫像は少なく珍しい像です。また薬師・釈迦・阿弥陀の三尊一具からなる小像が祀られていますが、これは常樂寺の護法社三聖神社(境内入口の右側に所在)のかつての神像で、明治初年の神仏分離令によって常樂寺本堂後陣に移された本地仏です。「三聖」とは山王三聖のことと、延暦寺の護法社である山王社(日吉大社)の西本宮・東本宮・宇佐宮の三社の総称です。東本宮の本地は薬師、西本宮の本地は釈迦、宇佐宮の本地は阿弥陀ですから、常樂寺の護法社である三聖神社は



国宝常樂寺三重塔

日吉大社の分靈社ということで、天台宗常樂寺の鎮守として日吉神が勧請されたのです。常樂寺と同様の寺格の天台寺院には、護法社として日吉神が境内に勧請されている例が多いです。隣地の東寺、長寿寺にも本堂横に日吉上七社の一社である白山姫神を祀る白山神社があります。

(三)

常樂寺三重塔(国宝)は三間本瓦葺の塔で、本堂斜め後方の台地上にあり、屋根瓦に応永七年(一四〇〇)五月の笠書があり、室町時代初めに建立されています。応永五年三重塔再建勧進状によると、願主慶禪は、かつて草堂の傍にあった塔は、歳月を重ねて荒れるにまかせ基壇のみ存したが、仁平年間の行胤堂舎再興どきは、塔にまで力が及ばず。龜山天皇の文永年中(一二六四-七五)一応再興の地鎮、立柱の儀式は修したが完成しなかったと記しており、かつてあった塔は土壇を残すだけで応永年間まで再建されなかったことが知られます。

塔の初層内の須弥壇上には釈迦如来坐像が安置され、その背後の来迎壁には釈迦説法図が極彩色で描かれて、釈迦如来の周囲には多くの聴聞者が描きだされています。須弥壇をとりかこむ四天柱は諸菩薩、内法壁には眞言八僧図、十王図が描かれ室町初頭の画風をよく表現しております。

塔は本来仏舎利を安置する建造物ですが、天台宗では法舎利、すなわち釈迦の根本經典である法華経を仏舎利に替えて安置するもので、法華塔とでも称すべきものです。最澄は法華経をもって一宗を樹立せんことを念じ、天台法華宗の認可を官に請うております。また国中に六ヶ所の宝塔院を設け、それぞれ法華経を安置して法華経の功德に基づく護国を願っております。六ヶ所とは東は上野、北は下野、西は筑前、南は豊前、都の所在する山城、国全体としての近江で、総宝塔院の近江宝塔院こそは比叡山寺であったのです。この

ような思想は、奈良時代に国々の国分寺に金光明経を安置して、金光明経の功德による国家統治を願ったのと通じるものがあると考えられます。最澄のこの思想は天台宗の根本をなすもので、天台寺院の大寺は塔を建立し、小寺には石造宝塔を造立して法華塔としました。滋賀県犬上郡甲良町の西明寺三重塔（国宝）の初層内部に、法華経の内容を絵画で表現した図が描かれているのは以上のような理由によるものです。常樂寺三重塔、来迎壁の釈迦説法図は、釈迦が法華経を説法している図と考えてよいと思われます。

しかし内法壁の真言八僧像については、天台寺院であるだけに疑念がもたれるが、どうも一四世紀末から一五世紀にわたって常樂寺は天台真言両密兼宗時代があったようです。常樂寺の隣村東寺の長寿寺護法社白山神社に板絵高野四所明神像が伝存されています。この裏面に「図絵高野四所明神を奉る。施主等」と墨書して、良慶以下十七名の僧侶名を列記し、末尾に「文明十五年卯月五日 絵師道秀」と記しています。高野四所明神とは高野山金剛峯寺の護法神、丹生都比売、丹生都比売の御子神、氣比大神、巖島大神の四神をさすもので、丁度比叡山延暦寺の護法神が日吉神であるように真言宗金剛峯寺の護法神です。この高野四所明神が天台名刹長寿寺護法社に伝えられることは、常樂寺三重塔内に描かれる真言八僧図と共に室町時代は一時期であったにせよ天台・真言両密兼宗期があり、三重塔の再建者慶禪も天台真言両密の僧侶の一人であったと考えられます。さらに近くの金勝山上の金勝寺も天台宗でありながら中世は天台真言両密兼宗であったようで、室町時代の著作である『諸寺縁起集』にその由を伝えており、金勝寺、常樂寺、長寿寺といった湖南古寺の宗教的立場の一端をこの真言八祖図はよく物語っています。

いま参道の入口にある山門は伝えによると阿星山中腹にある天台寺院観音寺（栗東町大

字観音寺）の山門を移建したもので、本来の山門は現在大津市園城寺の大門（二王門・重文）が常樂寺の二王門でありました。これは宝徳四年（一四五二）の棟札写があって、豊臣秀吉が伏見城築城に際して常樂寺二王門を伏見に移し、さらに毛利輝元が慶長六年（一六〇一）伏見城より園城寺の大門として移築



常樂寺全景

いたしました。園城寺大門がかつて常樂寺参道の入口にあったことを思い浮かべますと、緑につつまれた阿星山麓に、二王門、本堂、三重塔を完備した寺院の輪奐美は見事なものであったと想起されます。